

第2回福岡県公立大学法人評価委員会 議事要旨

1 日 時

平成17年10月11日（火） 10:30～15:00

2 場 所

福岡県庁行政棟10階 特1会議室

3 出席者

委員：杉岡委員長、中津井委員、中村委員、新田委員、藤田委員、尾形特別委員

4 議題

中期目標案、中期計画案

5 議事概要

事務局から中期目標案及び中期計画の考え方、各大学から中期計画案の説明の後、各委員による意見交換が行われた。

委員からの主な意見は次のとおり。

〈三大学に共通する意見（中期目標・中期計画）〉

- 大学を改革する上で、現状分析を行い具合が悪いところを明らかにすることが重要である。
- 経営と教育の分離は良くない。両者が合体して考えていく必要があるのに、教員が経営のことを考えないのでは独法化の意味がない。本当の意味で独法化を全職員が理解することが大切である。
- 福岡県にある大学であり、地理的に見てもアジアを視野に入れる必要があるが、中期目標・中期計画には意外に書かれていない。
- 経営戦略とはポジショニング（他大学との差別化の位置付け）であり、これがはっきりしないと何をすればいいかわからなくなる。中期目標や中期計画ではそれを明確にする必要がある。
- 中期計画前文に、こういう人材を育てるという法人化にあたっての宣言・キャッチフレーズ的なものがあるといい。
- 各大学がコンパクトな大学としてやっていくには、いかに個性を発揮するかが大切。中期計画には、これについてはこの大学が日本一というような具体的な特色を盛り込むべきである。

〈九州歯科大学中期計画に関する意見〉

- 歯科大は唯一の公立の歯科単科大学であり、公立として、もう少し国立、私立との役割分担を明確にしたほうがいい。

- 全体的な印象として具体性に欠ける。問題点を洗い出して具体的な対応を考えて欲しい。
- 中期計画前文には、現在歯科医療が抱える問題が何であるかということと、そのような社会的問題が存在する中での歯科大の現状というところから書いたほうが素人には分かりやすい。
- 歯科大のお家芸（得意分野）を打ち出すことが必要。現状を把握して、どういう特徴を出していくかを具体的に考えるべきである。
- 附属病院経営の達成目標に患者紹介率30%以上とあるが、その他にどこをどう改善するかが見えない。病院のどこが問題でどう変えようとしているのかを書かないと、紹介率だけでは課題が分からない。

〈福岡女子大学中期計画に関する意見〉

- 全体の印象として、抽象論的で具体性に欠ける。取り組みが遅く、計画そのものをスピードアップする必要がある。
- 女子大は改革が一番遅れており、とりあえずのレベルまでもっていくことがまず必要。そのためには計画をもう少し具体的にしたほうがいい。改革の具体的な方向を書くか、方向性をいつまでに出すといったことを宣言したほうがいい。
- 文学部は、学部名を変えるくらいのことを考えないと、文学部のままではイメージが変わらない。
- 文学部の共通科目として設定している国際文化科目群は、教養から大学院まで一貫して行うようになっていない。アイデアはいいが、本当にできるのか。
- 韓国などに提携校を設け、語学研修などを積極的にやると大学のイメージも変わって学生も来る。そういうことも考えて新しいイメージで改革を行って欲しい。

〈福岡県立大学中期計画に関する意見〉

- 県立大は三大学の中で一番地域密着型であり、地域と一緒にやって行う社会貢献が重要である。
- 看護と福祉の両方の学部を持つ公立大学はあまりない。県立大は、新しい看護・福祉の人材を輩出するモデルケースであってほしい。
- 福岡県の抱える保健医療の問題に取り組む姿勢があまり感じられない。
- 県内の保健医療施設には、医療機関、老人保健施設、訪問看護ステーション等を持つ複合的な経営を行っているところが多い。そのようなところをフィールドとすれば、看護系・福祉系・社会学系と一緒に教育研究が行える。活用できる材料を取り上げる姿勢が必要ではないか。